

## 第4回学校運営協議会実施報告書

(地域学校協働本部合同会議)

令和6年7月25日(金)

14:00~15:00

石原小学校応接室

### 1. 開会あいさつ

会長より挨拶

### 2. 前回議事録の確認

### 3. 議案

#### (1) CS先進校への傍聴及びレクリエーション参加報告

##### ① 第三小学校の取り組み報告

- ・CSと協働本部の役割分担がはっきりしており、組織として機能している感じ。(地区協は組織していないが)
- ・「共育」という文言をあえて記している。
- ・CSの書記を主幹教諭が行っている。
- ・2年目の実績がある、建設的。一番は子どものために。

##### ② 報告を受けての意見交換

- ・石原小では、地域・学校・学園として努力することがあって良い。
- ・CSの目的と学校の特色をどう生かしていくか。PTAをどう補うか。
- ・地域各団体の取り組み一覧を作成すると、地域の方はスケジュールも立てやすくよ参加や協力が得やすいのではないかと。⇒地区協で取り組んでもらう。

##### ③ CSと学校協働本部について(石原小の取り組みに向けて)

- ・別紙「コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体推進」について説明。
- ・これから石原小の子どもを中心に熟議する。
- ・これまで協働本部でやっていたものを生かしていく。
- ・CSの責任と協働本部の自由な発想、コーディネーターの存在の大切さ。  
学校全体・地域全体で活性化、校長が変わっても変わらない学校づくり。
- ・「石原小らしいイメージとは？」

今年度の「えがお」が学校でも地域でもテーマの一つになっている。

##### ④ 「石原小(富士見町)らしい事とは何か…！」 ⇒ 地域性について共有

CS・協働本部の本日出席メンバー普段感じていることの共有を行う。(別紙参照)  
⇒共に育む・皆が平(たいら)・我が子として迎える、「愛」をもって皆が支える地域づくりが大切。皆がかえってくる地域にしたい。

##### ⑤ 石原小CSと協働本部の連携

- ・子ども達を中心に考えていきたい。協働本部は実行部隊。笑顔にできる取り組みを行っていきたい。
- ・来年度の計画は12月位にCSで学校の運営状況、協働本部の活動状況も踏まえ、建てていく。
- ・学校開放日をターゲットに何か取り組みができれば良いと思う。(休日補償・教員負担軽減も考慮し)

<九九クリニックの取り組み>

- ・サポート呼びかけ：民生委員・富士見子ども連絡会のメンバー
- ・九九クリニックのこれまでの取り組みを理解し、サポート体制を確保するために。
- ・登録人数20名は確保したい。(一クラスに2名×3クラス+取りこぼし組支援) 東窪さん始め、実働の藤野・遠田恵と先生にて打ち合わせをしていく。

<その他の取り組み案>

ボランティア活動登録票の復活案 ⇒ 協働本部でリスト作成。

南側の畑の活用・SNSの危険性の学習・どうやったら早く走れるか講習

SNS問題は深刻、大人と子どもの相談できる普段の関係づくりが大事

<教員とのお話会>

8月30日15:00～の教員との話合いについて

「先生が取り組みたいことを聴く」 CSと協働本部も合同。車座で。

先生方10名予定。2-2 or 2-3の構成。お互いの人となりを知る、やりたいけど困っていることなど、聞けるような機会に。

#### 4. 閉会挨拶

飯島校長より

地域の方の思いがすごく伝わってきた。この4年間教員の意識も大きく変わっている。休みの日に「来なさい」と言えない現状を考えると、学校のある土曜日に取り組むことは良いと思う。

8月30日会合で教員と話しできるのはありがたい。こんな学年でこんなことやりたいなど深く話せると良い。今年度にルールを敷き、来年度につなげて行きたい。

以上

<別紙>

(1) CS 先進校への傍聴報告 ⇒ 日比生氏のレポート参照

その他の活動報告

・段ボールルームの作成など工夫あり。

・「水遊び」の取り組み ⇒ 藤松氏+いしわら軍団3名の参加

大人は子どもと同じ位参加していた。

石原小でも同じこととして遊べると良い、来年くらいに。大人子ども交流も大事。

準備は大変そうなイメージあり。

いろんな方が協力している。

仮設トイレ体験も行ってた。

5・6年生は遊ぶだけでなく、協力要員として活動。

先生(らしき)方も一緒に遊んでいる。同じ目線で。

(2) 「石原小(富士見町)らしい事とは何か…！」 ⇒ 地域性について共有

藤松：学園・皐月があって、適度に田舎で、施設の子が友達にいて当たり前。そういうことが日常的に考えることができる。人を自然に受け入れられる環境がある。

遠田：人にやさしい。共に育てている地域。

能登：地域が寛大であること。いつも迎えてくれる温かさがある。皆と一緒に発展してきた町。それが受け入れられている。石原で教員できたらどこの学校に行っても大丈夫。変な確執がない地域。住みよい町。

藤野：小さいころから石原小・調布中。学園さんとかも当たり前。子どもが生まれて幼稚園に行ったとき、他地域から通われていた方からの心無い言葉もあったが、地域状況を話すと分かってくれていた。この地域に戻って住む人も多い。

この地域ってこうなんだ！が、「あたり前」の場所になっている。

遠田恵：富士見町に来たのが19年前。誰でも受け入れてくれる人。学園の子の前で実子と手をつなぐことが申し訳ないと思っていた。能登さんが「自分の子を大事にする姿を見せてあげなさい」と声をかけてくれた。石井義久さんは「この地域は平ら(たいら)を目ざす地域だよ！」と教えてくれた。千葉さんは「学園の子が大事にされることは自分の子どもも大事にされること。だからソフトを続けるのよ。」と話してくれた。東窪さん「我が子と同じ目線」でかかわっている。羽村先生「親にかわる親はいないんだ」とおっしゃっていた。学園の子も我が子も同じ気持ち。

おせっかいが子どもを救う。おせっかいが平らにするのかもしれない。

東窪：開放委員長の目線で発言。これまでも石原小に関わるPTA会長が開放を担っていた。全校の子どもの顔を知っていた。地域のおじちゃん・おばちゃんが頑張らなきゃいけない地域なんだ！と、先人から教えていただいた。地域密着メンバー。

そういうメンバーが地域にいることも知ってもらいたい。

皆さん、温かい、そして熱い思いをお話ししてくれました！すばらしい！